



巡礼その五十八 五島列島

2022年 10月13日

このところ天正遣欧少年使節やペトロ・カスイ・岐部など、キリシタンについて調べる機会が増えている。そこで世界遺産になった「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と教会建築の父といわれる鉄川与助について調べてみることにした。まず長崎県の五島列島から見てみたいと思ったが、その名の通り5つの島からなり、島と島との間は船を利用しなくてはならない。その船が乗り継ぎが悪く、一つの島に最低一日かかってしまう。海上タクシーを使えば効率良く回れるが、とても費用が高く無理である。また教会見学も予約制なところが多く大変である。これらのことからツアーに参加するのが手っ取り早いと思い、重要な教会を網羅しているユーラシア旅行社のツアーに参加することにした。参加者は17名である。

羽田空港第2ターミナルの一番左側（ツアー用）に7時30分集合。7時10分到着、添乗員の伊藤さんから本日の昼食はないので、各自買って長崎空港で食べるようにとのことで、まい泉のカツサンドを買って長崎行きのANAに乗り込む。東京は小雨が降っているが、長崎空港は晴天である。ここから福江島行きのプロペラ機に乗り換える。ロビーでカツサンドを食べ、30分で福江島である。隣には添乗員の伊藤さんが座り、80～90年の海外旅行の話で盛り上がる。伊藤さんはその頃、大学生でパックパッカーでヨーロッパから陸路でインド・東南アジアを回ったそうだ。福江島で観光バスに乗り先ずは五島ワインのワイナリーへ行く。福江島は五島で唯一平地が多い島で、水田や畑が広がる。ワイナリーへ行ったが、五島産のワインはすべて売り切れであるのは甲州ワインでみんながっかり。次は遣唐使が往復に訪れた明星院へ行く。この寺の名前は空海がつけたそうだ。ここからいよいよ教会巡りであるが教会はすべて島の突端の辺鄙なところに建てられている。まずは煉瓦造りの堂崎教会で入江の奥まった所にひっそりと建っている。設計はペルー神父で鉄川与助は施工に参加している。ステンドグラスがきれいだ。水ノ浦教会（福江）も島の反対側の入り江の上に立っている。白く塗られた木造で1938年設計施工は鉄川与助である。境内にルルドが作られ、裏の高台にはヨハネ五島の像や、弾圧時代の牢跡もある。ここからの

眺めが素晴らしい。本日の宿は福江港のすぐそばにあるカンバーナホテルである。平成天皇も泊まったらしい。すぐに風呂へ行き夕食へ。五島牛会席で、キビナゴ、五島うどん、五島牛が美味しい。9時には寝る。

10月14日

6時に風呂へ行き、港の朝焼けを見る。7時朝食、出発まで福江の港を散歩する。8時45分貝津教会へ向かう。この教会もとてもへんぴな山の集落にある。1924年に建てられた木造でとても古い形態を維持している。たまたま修理中なので内部がよくわかる。ステンドグラスが綺麗だ。さらに西側の岬の突端の丘の上に井持浦教会がある。1897年建立のレンガ造教会が台風で倒壊し、1988年にコンクリート造の現教会となる。ペルー神父は、五島の信徒に呼びかけて島内の奇岩・珍石を集め、1899年、日本で最初のルルドを作る。ここからすぐのところに日本でも特に美しい海岸と言われる高浜海岸がある。確かに美しく白い砂と海のグラデーションがすごい。次は150mの断崖が続く大瀬崎断崖展望所へ行く。突端の断崖の上に、映画「悪人」の舞台になった灯台が見える。お昼は「ニュー・パンドラ」という食堂で五島豚（美豚）丼を食べる。ひつまぶしのように、そのまま、薬味のせ、茶漬けで食べる。そのままがとても美味しい。ここの名物のうつぼの湯引きを酢味噌で食べる。これも美味しい。福江港に戻り、海上タクシーでまずは久賀島の旧五輪教会へ行く。ここは海上タクシーでしか行けない。この集落には現在4人しか住んでいない。入り江の突き当たりに1881年に建てられた木造の素晴らしい教会だ。外から見たら和風の建物だが中は本格的な教会になっている。ステンドグラスは木枠でその窓は普通外開きのフレンチウィンドウだが、なんと日本伝統の引き戸になっているのには感動した。船に戻り奈留島の江上天主堂に向かう。同じく入り江の奥の海側からは見つけにくい樹々の中に立っている。ここも海上タクシーが便利である。入り江の港に着けて海岸沿いを歩いていく。道がなくなったところ、一段高くなった林の中に、クリーム色と青い窓のとても美しい建物が見えてくる。1918年に鉄川与助が建てた木造教会である。手書きの窓ガラスが素晴らしい。奈留島の奈留高校の校歌は荒井由実が手がけた「瞳を閉じて」だったが、歌詞に奈留高校と入っていないので愛唱歌になったそうだ。船に戻り本日の宿がある中通島へ向かう。途中若松島にあるキリシタン洞窟とハリノメンドを見学する。ここは海からしか見えない。キリシタン洞窟はキリシタンが迫害を逃れるために身を隠していた洞窟で現在キリスト像が建てられている。ハリノメンドはすぐ近くの岩が侵食されて出来た穴でマリアがイエスを抱いているシルエットに見える。若松港で海上タクシーを降り、観光バスで若松大橋を渡り今夜の宿 HOTEL MARGHERITA NARAO のある奈良尾までドライブだ。景色が素晴らしい。海は穏やかでいたるところで魚や貝の養殖をして

いる。HOTEL MARGHERITA NARAO は奈良尾港の高台にあり、国民宿舎をリノベーションしたモダンなホテルだ。すぐに風呂へ行き、夕食である。食事は地のものを使い、とても美味しい。部屋はシンプルでシャワーのみであるが問題ない。すぐに寝る。

10月15日

6時起床、6時30分朝食、8時30分出発。まず島の一番北にある津和崎港まで1時間半、上五島をドライブである。ここは福江島と違い平地がない。狭い山道をバスが行く。周りの島々がとても美しい。右に左に海が見える。土地が貧しいのでサツマイモが唯一の農産物である。小さな村には移動のスーパー（移動店舗車—軽自動車）が店を出している。津和崎港からはすぐ前に野崎島が見えている。ここから海上タクシーで野崎島まで15分である。野崎港へ着く前に海上から旧野首教会が見える。まず野崎島ビジターセンターにより、ガイドと一緒に旧野首教会を目指す。現在野崎島は無人島で野崎孝の周りの集落は荒れ果てている。港からはのんびりハイキング、上り坂が続き、ときどき鹿が顔を出す。逃げないでこちらを見つめている。途中から見る海はとても綺麗でグラディエーションがすごい。下り坂になったところから教会が見えた。今回の旅のハイライトで角度を変えて教会が近づいてくる。感動的である。周囲は放置された棚田が物哀しい。1908（明治41）年、教会建築の名工、鉄川与助によって設計・施工されたものとしては初のレンガ造りの教会。いつまで見ても飽きない。内部も感動的でステンドグラス、柱頭の彫刻、床の木の貼り方、全てが美しい。後ろ髪を引かれる思いで後にする。港に戻り、拝殿、本殿がすべて崩壊した若宮神社に行ってみる。狛犬だけが残っていた。津和崎港の戻り、今度は南に下りながら教会を見に行く。仲知教会堂は新しく改修された教会でキリストの一生のステンドグラスが美しい。ここにもルルドと聖ヨハネ五島像がある。江袋教会は魚目の集落の中にあり、わかりにくい。1882年にはブレル神父の指導と援助で教会が建てられ2007年に焼損。2010年5月に昔のままに復元修理された。内部も昔どおりで素晴らしい。昼食は有川の港のそばにある「はまさき」という五島うどんを作っているお店がやっている食堂で「地獄炊き」と言う、うどんを自分で茹でて卵につけて食べる料理と海鮮丼である。流石に五島うどんは美味しい。海鮮丼も絶品である。ここで土産に五島うどんを買った。食後は旧鯛ノ浦教会へ行く。ペルー神父・鉄川与助によって1903年に建てられたレンガ造りの教会である。ステンドグラスが美しい。敷地内にブレル神父、聖ヨハネ五島像、上五島最後のキリシタン殉教の地の碑、ルルドがある。本日最後は頭ヶ島天主堂である。入り江に隠れるように立っている石造りの教会である。鉄川与助の設計施工によって建設され、近くの石を切り出して、1919年に完成。敷地内に復活信仰顕彰の碑、キリシタン拷問の石などがある。外観の重い感じに比べ、内部

は花をあしらった彫刻で軽やかである。ステンドグラスもシンプルで良い。HOTEL MARGHERITA NARAO に戻り時間がないのでシャワーを浴びて夕食へ行く。今日の夕食も美味しい。食事のセッティングがいつもは一人ずつであるが今日は横に伊藤さんがいたので旅行の話をつぶし話した。その後風呂へ行き、サウナに入る。ここのサウナは海が見えて良い。10時に寝る。

10月16日

6時起床、7時朝食、本日も晴天。出発まで散歩する。まずいつも通るときに見ている中ノ浦教会へ行く。この教会は海面に映る姿が美しい。内部は頭ヶ島天主堂と同じく花の彫刻がアクセントになっている。1925年に建てられ、特徴的な正面の尖塔は後年増設された。大曾教会は鉄川与助設計施工によるもので1910年建立された。レンガ造りで重層屋根構造である。正面にはキリスト像、横には懐妊下マリア像が立っている。冷水教会は鉄川与助が棟梁となって初めて手掛けた教会であるが、修復されて見所が全くない。五島最後の教会は青砂ヶ浦教会で鉄川与助が1910年に立てた。信徒が総出でレンガを運びあげたそうだ。とても凝った教会でレンガの積み方や使い方が良い。マリア像と聖ミカエル像が敷地内にある。

お昼は有川港の近くの「割烹扇寿」で天ぷら定食を食べる。巨大な茶碗蒸しといなり寿司が良い。食後は自由時間なので海堂神社へ行く。シロナガスクジラの下顎が鳥居になっている。ここの階段を上ったところに恵比寿や龍神が祀られている。その周囲には巨大なアコウの木が生えている。有川港から高速船で長崎に行く。その前に鯨賓館ミュージアムに行き、鉄川与助のコーナーを見る。高速船に乗った頃から雲が多くなってくる。1時間半で長崎港に着く。なんと長崎は雨だった。観光バスに乗り、大浦天主堂へ行く。駐車場から坂を登っていくが雨が本降りになってくる。天主堂、やキリシタン資料室などを駆け足で見学してバスで大村の長崎空港に向かう。チェックインして19時の飛行機なので、中で食べるように空港内にあるハンバーガーショップでベーコンバーガーとコーラを買う。お土産に頼まれたカラスミ（長崎産）を買い機内へ。21時に羽田に着き解散。リムジンバスで帰る。